

令和 8 年度

試験名: 推薦入試試験

【 社会・国際学群

社会学類】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
小論文	<p>本問は、結婚と法の関係めぐり、結婚制度の廃止論に立つ論者の主張を受験者に読解させたうえで、下記の 2 つの設問を課した。</p> <p>&lt;問題 1&gt;は、読解力と、論理構成力・文章構成力を問いつつ、望ましい社会について規範的に思考する能力を問うものである。&lt;問題 2&gt;は、ありうる社会的被影響者への感性や、関連する諸社会科学の基本的知見への知を問いつつ、論理的構成力を問うものである。どちらについても、正解例を設定はしていない。</p> <p>&lt;問題 1&gt;</p> <p>問題 1 は、論者の主張を読解しつつ、その基本的主張たる法と愛の分離に関して規範的評価を求めるものである。この設問で評価のポイントとしたのは、1. 論者の主張の骨子を適切に読解し再構成することができるか、2. 受験生により示される規範的主張が、論理的に整合しつつ根拠を挙げられているか(さらにありうる異論に回答を行う等の形で擁護が適切にできているか)であり、どのような主張であるかは評価の対象としていない。</p> <p>&lt;問題 2&gt;</p> <p>問題 2 は、結婚制度の廃止がなされた仮想的な世界におけるリスクと克服の方途の考察を求めるものである。この設問で評価のポイントとしたのは、1. 社会的被影響者・被影響主体が具体的に想定され、論理的一貫性を備えた形でリスク・課題等が同定されているか、2. 適切に諸社会科学の知見や倫理的思考を用いつつ、議論を論理的に構成できているか、である。</p>